

# ドミニカ概況

*Commonwealth of Dominica*



2021年6月

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

## 目 次

I 概観	3
1. 一般情報	4
2. 略史	6
II 政治と外交	6
1. 外観	6
2. 最近の政情	6
3. 行政	7
4. 立法	7
5. 政党	7
6. 司法	8
7. 防衛・安全保障	8
8. 外交	8
III 経済	9
1. 概況	9
2. 近年の経済状況	9
3. 産業	10
4. 金融・財政	11
5. 貿易	11
6. 経済統合	12
7. 対日貿易	12
IV 日本との関係	14
1. 政治・外交	14
2. 開発協力	14
3. 要人往来	15
4. 文化・人的交流	15
5. 在留邦人	15
V 旅行者のために	16
VI 主要連絡先	17
参考資料 1 閣僚名簿	18
参考資料 2 祝祭日	22

(注) この資料に掲載された情報は21年6月の時点で調査したものです。

## I 概観

### 1 一般情報

	ドミニカ（国）（注）	日本
面積	約 750 km <sup>2</sup>	約 377,975.61 万 km <sup>2</sup> （2021 年）
位置	北緯 15 度 20 分～15 度 40 分 西経 61 度 15 分～61 度 30 分	東経 123～154 度 北緯 20～ 46 度
時差	日本との時差は－13 時間	
気候	熱帯性 乾季：2～5 月雨季：6～10 月 ハリケーンシーズン：8～10 月 年平均気温：27.9 度 年間降水量：1,759.8.76 ミリ	（東京）（2020 年） <sup>1</sup> 8 月：29.1 度 1 月：7.1℃ 年間降水量：1590.0 ミリ
人種・人口	74,584 人（2021 年） 人口増加率 0.07%（2021 年） 人種構成：アフリカ系 86.6% 混合人種 9.1% 先住民 2.9% その他 1.5%	1 億 2536 万人 （2021 年 5 月） <sup>2</sup>
国旗	緑の旗地を白、黒、黄色の三色の帯で十字に切り、中央の丸く囲んだ赤地に国鳥のオウム(sisserou parrot)をあしらひ、ライムカラーの緑の星 10 個を縁に沿って配列している。オウムは常に高く志向する国民の願望を、緑の星は教会区の数と平等を、そして中央の赤丸は社会正義を実現するという国家の約束を表している。十文字の三色のうち黄色の線は太陽の光、主要産物であるオレンジとバナナ、そしてドミニカ民の先祖であるカリブ族とアラワク族を、白の線は河川の清らかさと国民の志向の純潔さを、黒の線は肥沃な国土とアフリカ系住民をそれぞれ表している。旗地の緑は森と国土の活力を表している。	
主要都市	首都：ロゾー（Roseau）	
1 人当たり GDP / GNI	1 人当たり GDP（米ドル） 8,110 1 人当たり GNI 7,920	（世界銀行 2019 年）
社会	東カリブ諸国の中では最も貧しい国の 1 つ。貧困や識字率等の社会指標は同じ所得水準の途上国よりは高いが、他のカリブ諸国と比較	

<sup>1</sup> 気象庁：

[http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly\\_s1.php?prec\\_no=44&block\\_no=47662&year=2019&month=&day=&view=a1](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=44&block_no=47662&year=2019&month=&day=&view=a1)

<sup>2</sup> 総務省統計局：<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/>

	すると低い。
宗教	大半がキリスト教徒（約90%）
文化・習慣	カリブ諸国の中ではセントルシアと並んで最もフランスの影響が強く残る国。スポーツはクリケットやサッカーが人気。
教育	英国に倣った教育制度、5～16歳までの12年間が義務教育。

（注：ドミニカ共和国との混同を避けるため、ドミニカ国とも記述されます。）

## 2. 略史

ドミニカ史	
西暦	出来事
1493	コロンブスによる発見
1660	英仏条約：カリブ族の支配下へ
	約250年にわたるカリブ族の領有
1805	英国の植民地確定
1950年代	バナナ栽培の本格導入
1958	英領西インド諸島連邦加盟（～62）
1967	英国の自治領となる
1978	11月3日独立
1980	総選挙：ドミニカ自由党(DFP) 政権
1985	総選挙：第2次DFP政権
1990	総選挙：第3次DFP政権
1995	総選挙：統一労働者党(UWP)政権
2000	総選挙：ドミニカ労働党(DLP)とDFPの連立政権
2005	総選挙：DLP政権
2009	総選挙：第2次DLP政権
2014	総選挙：第3次DLP政権
2019	総選挙：第4次DLP政権

### a. 独立以前

1943年11月3日、コロンブスの2度目の航海で「発見」されました。勇猛果敢なカリブ族の抵抗により植民は進まず、発見以来約250年にわたり事実上カリブ族がこの島を領有し続けました。18世紀英仏間で領有権を巡って争いが繰り返されるようになりましたが、1763年にフランスが英国に領有権を委譲し、1805年に正式に英国の植民地になることが確定しました。以後砂糖生産技術導入に伴いプランテーションが

拡大し、アフリカから多数の奴隷が輸入され一時は大いに栄えましたが、19世紀に入ると奴隷解放に伴う労働力不足、コーヒー、砂糖価格の低迷によりプランテーション経済は大きな打撃を受けました。その後、柑橘類やカカオ栽培に続き、1950年代にバナナ栽培が本格的に導入され今日に至っています。1958年には英領西インド諸島連邦に編入されましたが、1962年3月に同連邦が解体、1967年に外交と防衛などの権限を英国に委ねた自治領となり、1978年11月3日、大統領を元首とする共和国として独立しました。

#### b. 独立以降

独立前の1961年からドミニカ労働党(DLP)が政権を維持、1974年から首相の座についていたパトリック・ジョンは権威主義的傾向を強めていましたが、1980年、独立後初の総選挙で、DLPから独立したドミニカ自由党(DFP)が勝利、チャールズ同党党首がカリブ地域初の女性首相として就任しました。チャールズ政権はDLP支持者が企てた2度のクーデターを乗り切り、1985年の総選挙でも勝利しました。その後野党は統一労働者党(UWP)に再編して1990年の選挙に臨み、与野党伯仲の状況が続きました。1993年8月、チャールズ首相は政権半ばで引退し、1995年の選挙では野党UWPが11議席を獲得し、3期にわたったDFP政権に終止符を打ちました。2000年1月に行われた選挙では、与党UWPが僅差で破れ、野党DLPがDFPと連立政権を樹立しました。

その後、同年10月にダグラス首相が急逝し、チャールズ通信・公共事業相が首相に昇格したものの、04年1月に同首相も急死し、スケリット教育大臣が首相に就任しました。05年5月の総選挙では、スケリット首相率いるDLPが単独で21議席中、12議席の過半数を確保しました。19年の総選挙でもDLPが18議席を獲得し、再選しました。

## II 政治と外交

独立年月日	1978年11月3日
政体	大統領を元首とする立憲共和制 大統領：チャールズ・サバリン
立法府	一院制
議席数	30～32議席
任期	5年
政党議席数	ドミニカ労働党（DLP）：18 統一労働者党（UWP）：3  議員は21の選挙区から普通選挙により各1名選出。選任議員9名は、選出議員による選挙か推薦のどちらかで決定される。推薦の場合、首相から5名、野党代表から4名が推薦され、大統領が任命。議長及び法務長官は議会外から選出されることもある。
	主要政党 ドミニカ労働者党（DLP）：党首 ルーズベルト・スケリット 統一労働者党（UWP）：党首 レノックス・リントン
行政府	議院内閣制
司法制度	・治安判事裁判所（Magistrate's Court） ・高等裁判所（High Court） ・控訴裁判所（Court of Appeal） ・カリブ司法裁判所（Caribbean Court of Justice）
防衛	警察（特別部隊と沿岸警備隊を含む）

### 1. 概観

大統領を国家元首とする共和制、議会民主制国家で、英連邦に加盟しています。実権のない大統領を有している点、一院制を採用している点以外は、英国のウェストミンスター議会民主制度にほぼ準じた政治制度になっています。大統領の選出方法は、首相及び野党代表が協議の上、大統領候補者の共同指名に同意すれば、議長が議会に報告し、選挙を実施することなく大統領が選出されたことを宣言します。首相が大統領候補者の共同指名に同意できない場合、議会の選挙により選出されます。任期は5年で、現在はチャールズ・サバリン大統領です。

### 2. 最近の政情

スケリット首相率いるDLPは、05年、09年の総選挙で勝利し、単独で政権を担うと、14年12月の総選挙でもDLPを勝利に導き、安定した政権運営を行ってきました。スケリット首相の強力な指導力下にあるDLP政権に、国民の大きな不満はないという現れと見られます。

14年の総選挙において、前回よりも3議席減らしたDLPは、以前よりも国民からの支持が低下していました。同国は、他のOECS諸国ほど、金融危機の影響は受けなかったものの、失業率は高止まりし、自然災害に対する脆弱性も懸念されていました。また、閣僚による汚職、中国やベネズエラ、キューバとの関係強化を懸念する声も絶えませんでした。16年10月、野党UWPは首相不信任動議を提出しましたが、議会により否決されました。17年9月には、ハリケーン・マリアがドミニカを襲い、GDPの200%という甚大な被害をもたらしました。その後政府は復興に努めています。

19年12月6日に総選挙が行われ、選挙改革やハリケーン・マリアからの復興状況等が争点となりましたが、与党DLPが21議席中18議席を獲得し、圧勝し、スケリット首相が再任されました。また、ロゾー中央選挙区では、スケリット首相夫人が当選しました。

新型コロナウイルスは、20年3月に国内で初の感染者が確認され、緊急事態宣言、夜間外出禁止、経済活動の制限等を実施し、国境も閉鎖されました。その後感染が落ち着いていく中で、国内規制の緩和、国境の再開が行われました。21年2月からはワクチン接種が開始され、インドや中国からの寄贈、COVAXからのワクチンが到着し、接種を進めています。コロナ禍の経済的影響については、観光産業を中心に、深刻なものがあります。

### 3. 行政

議院内閣制で、下院の多数党の党首が大統領により首相に任命され、政権を担当します。閣僚は首相により推薦され、大統領によって任命されます。主に選出議員から任命され、選任議員から3名以上は選出できません。(参考資料1「閣僚名簿」参照)

### 4. 立法

議会は一院制で、全議席中21名は小選挙区から普通選挙により選出される議員(Representative)、選任議員9名は、選出議員による選挙か推薦のどちらかで決定されます。推薦の場合、首相から5名、野党代表から4名推薦され、大統領によって任命される選任議員(Senator)です。議長及び法務長官は非議員から選出されることもあり、その場合は議席数が増加します。選出議員の任期は5年で任期途中の解散があります。

### 5. 政党

主要政党は次のとおり。

ドミニカ労働党	(Dominica Labour Party、略称DLP)
党首	ルーズベルト・スケリット(Roosevelt SKERRIT)
統一労働者党	(United Workers' Party、略称UWP)
党首	レノックス・リントン(Lennox LINTON)

## 6. 司法

東カリブ裁判所制度の下にあるドミニカの司法制度は、①簡易裁判所である治安判事裁判所 (Magistrate's Court)、②高等裁判所 (High Court)、③控訴裁判所 (Court of Appeal) (うち②と③は東カリブ裁判所に属する)、④カリブ司法裁判所 (Caribbean Court of Justice : C C J) の4層構造になっています。ドミニカは、15年3月、これまで最終審として機能していた英国枢密院から独立しC C Jに加入しました。

## 7. 防衛・安全保障

特別部隊と沿岸警備隊を含む警察を有し、独自の軍隊は保有していない。東カリブ諸国の地域安全保障システム (RSS) に加盟しています。中南米産麻薬輸出の中継地となっており、麻薬問題は治安・国家安全保障上の最大の脅威と見なされています。

## 8. 外交

主に英語圏カリブ諸国で構成するカリコム及び東カリブ諸国で構成される東カリブ諸国機構 (OECS) の一員として、小国間の結束力の強化を図っています。WTO、FTAAといった国際的・地域的な貿易自由化の動きの中にあって、小規模経済国の利益をいかに守っていくかが最大の外交課題となっています。加えて、親米・親英の穏健外交路線をとっています。

かつては台湾承認国でしたが、04年に台湾と断交し、中国と国交を回復した後は、道路改修工事、クリケット・スタジアム建設及び公営住宅建設等に係る支援を通じ、急速に中国との関係を発展させています。17年9月のハリケーン・マリアの際、中国は国連開発計画 (UNDP) を通じた支援 (家屋修復)、公共インフラ復興支援等を発表し、合計1億2千東カリブドル (50億円相当) の無償資金協力文書に署名しました。

ドミニカは、北朝鮮と国交を有している他、ベネズエラ及びキューバとも密接な関係を構築しています。



### Ⅲ 経済

#### 1. 概況

ドミニカの経済規模は小さく、それを補完するためにカリコム及び東カリブ諸国機構（OECS）の両方に加盟し、小島嶼国間の結束力の強化を図っています。従来は、バナナ生産が中心でしたが、近年は作物の多様化も進んでおり、果実・野菜等も生産されています。周辺国と同様に観光にも重点を置いていますが、国土は山がちでビーチも少ないことから、他諸国との差別化を図り、豊かな自然を活かしたエコツーリズムを推進する動きが高まっています。また、火山を有する国であり、地熱エネルギー事業の取り組みも始まっています。

他カリブ諸国と同様に、小島嶼国であり、世界経済や自然災害等の外的要因の影響を受けやすいという脆弱な経済構造を有しています。

#### 2. 近年の経済状況

近年のドミニカ経済は、自然災害に大きく影響されています。08年の世界的な金融危機の影響を受け急速に鈍化した経済は、15年8月に発生した熱帯暴風雨エリカにより、死傷者の他、橋梁の崩落及び地滑りによる道路寸断等の大きな被害を受けました。赤十字の算出によれば、被害総額は4億8,280万米ドル、GDPの96%に及び、スケリット首相は、国際社会に対し、エリカの被害により同国が20年前の開発状態に戻るとして支援を求めました。

その後、政府はインフラや社会基盤の修復に継続的に努める一方で、財政の安定に取り組んできましたが、復興を進めるなか、17年9月には、カテゴリー5のハリケーン・マリアがドミニカを直撃し、過去最大の壊滅的な被害を受けました。ほぼ全ての経済活動が莫大な被害と損失を受け、公共インフラも壊滅し、世界銀行は、被害総額を約13億米ドル（GDP約224%）と算出しました。

ハリケーンの影響を受けた17年の成長率は、▲9.5%となり、以前の水準への回復には5年はかかるとみられていた中、20年にはコロナ禍での経済停滞を余儀なくされました。この間、ドミニカ経済に大きく貢献していた米ロス医科大学がハリケーンの影響からバルバドスに移転したことは少なからず影響を与えたと見られています。その後、政府は、復興に努め、観光業と投資による市民権プログラム（CIP）が好調であったことから、19年は76%と中南米カリブ地域の中でも高い成長を示しました。しかし、CIPと無償資金供与からの政府収入の不確実性、災害による復興予算の緊急性等のリスクは非常に大きく、財政不安は続く見込みです。政府は、経済多様化を目指すと共に、気候変動に強靱性を持つ国家作りを目指しています。

また、18年8月、ドミニカは、EUの税務に関する非協力的な税制を有する国別リストに掲載されていましたが、19年6月にそのリストから除外されました。

20年初から発生したコロナ禍は、ドミニカにも大きな影響を与え、政府は3月以降空港の閉鎖や外出禁止等の対策措置を取って来ましたが、近年増加傾向にあった観光客は前年比56%減というハリケーン・マリア以上の影響を与えました。

表1 GDP総額（単位：億米ドル）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
GDP総額	5.41	5.75	5.22	5.30	5.79	5.17

(\*推定値、出所:IMF World Economic Outlook Database, April 2021)

表2 GDP成長率（単位：%）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
成長率	▲2.6	2.5	▲9.5	0.5	7.6*	▲10.4

(\*推定値、出所:IMF World Economic Outlook Database, April 2021)

表3 インフレ率（消費者物価指数：年間平均）（単位：%）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
インフレ率	▲0.85	0.14	0.27	0.99	1.51	▲0.30

(\*推定値、出所:IMF World Economic Outlook Database, April 2021)

### 3. 産業

#### a. 観光業

ドミニカは豊かな自然に恵まれており、近年はそれを活かしたエコツーリズムを推進する動きもあり、カリブ諸国初の自然散策路コースもあります。ハリケーンの影響で観光客は減少したものの、19年にはハリケーン・マリア以前に近い33万人がドミニカを訪れるまで回復しました。

観光産業は20年のコロナ感染拡大により最も影響を受けた部門のひとつで、東カリブ中央銀行によれば、観光客数は前年の33万人から14.5万人とハリケーン・マリアが上陸した年以上の少なさとなりました。観光客による総消費額も2.8億東カリブドルから8千万ドルと激減し、GDPの3割強、雇用の3割強を占めていると言われる観光関連産業の落ち込みは、ドミニカ経済に大打撃を与えました。

#### b. 農業

ドミニカの農業はバナナ生産が中心です。ドミニカを含むインド洋諸島のバナナは、1975年から2000年まで続いたACP諸国（アフリカ諸国、カリブ海諸国、太平洋諸国）・EU間のロメ協定の下、優遇的条件で主にEU諸国に輸出されてきましたが、その後WTOの決定によりカリブ産バナナを優遇する制度が撤廃されました。2000年には、コトヌー協定を結び、一方的な優遇を受けるのではなく、EUから資金支援を受けつつも互恵を掲げた経済協定へ移行しています。12年には、シガトカ病の影響を受けてバナナの生産量は減少しましたが、16年5月、農業省はカリブ農業研究開発機構(CARDI)と協力し、シガトカ病に強い食用バナナと調理用バナナの収穫に成功しました。

その他、グレープフルーツ、ココナツ、ライムといった果物、ヤム芋、タロイモ、サツマイモといった根菜類も生産されています。

#### c. 地熱エネルギー

ドミニカは火山を有するため、再生可能エネルギー開発として地熱エネルギー事業が進められています。政府は16年にドミニカ地熱開発公社を設立し、ニュージーランドと協定を結び、ロゾー溪谷に発電所の建設、稼働を目指して進めていましたが、熱帯性暴風雨エリカ被害により社会開発プログラムの優先順位が変更され遅延しており、19年に予定だった建設はまだ開始していません。

#### 4. 金融・財政

東カリブ諸国機構(OECS)内で通貨統合(東カリブ通貨機構(ECCU))が実現しており、通貨は東カリブ中央銀行が発行する東カリブドルを使用しています。(為替相場は76年より、1米ドル=2.7東カリブドルで固定。)

金融危機の後、OECS諸国はECCUの財政政策として、経済の構造改革及び短中期的に持続可能な成長を促進させるための安定化プログラムを導入しました。東カリブ中央銀行によれば、このプログラムは、年間の目標を設置することで財政赤字及び公的債務を縮小させること等を目的としています。ドミニカの公的債務は増加傾向にあり、対GDP比は15年の75%から19年には90%を超え、コロナ禍の20年は100%近くにまで増加しました。

表4 公的債務割合対GDP比(単位:%)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
債務割合	75.28	76.55	84.18	79.68	91.01	97.10

出所:IMF World Economic Outlook Database April 2021

#### 5. 貿易

ドミニカの貿易は恒常的に大幅な貿易赤字を記録しています。主な輸出品は、加工石、バナナ、ココナツ、イモ類、生姜となっています。

表5 貿易額(単位:億ECドル)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
輸出	0.66	0.48	0.32	0.27	0.49	0.38
輸入	5.99	5.77	5.34	8.16	7.94	5.76

(出所:東カリブ中央銀行)

主要貿易相手国（地域）別貿易実績（2017）

	輸出		輸入	
	国名	構成比（％）	国名	構成比（％）
1	アンティグア・バブーダ	18.1	米国	33.8
2	セントクリストファー・ネービス	15.2	トリニダード・トバゴ	17.3
3	バルバドス	12.6	中国	5.8
4	グアドループ	9.8	英国	4.4
5	米国	9.2	日本	3.8

（出所：ドミニカ統計庁）

## 6. 経済統合

カリコムに加盟し、他のカリコム加盟国と共に、カリコム単一市場・経済(CSME)を推進しており、バハマ、ハイチ及び英領モンセラットを除くカリコム加盟国間(12か国)では単一市場(CSM)が06年に開始されました。域内からの輸入は、原産地証明書が発行された場合は無関税です。単一経済(CSE)については15年の開始を目指していましたが、まだ実現していません。

カリコムとして、対ベネズエラ貿易投資協定、対コロンビア貿易経済技術協力協定、対ドミニカ共和国自由貿易協定、対キューバ貿易経済協力協定、対コスタリカ自由貿易協定に署名しています。

カリコム及びカリブ諸国連合(ACS)を通じて、南米南部共同市場(MERCOSUR)、中米統合機構(SICA)等の中南米経済との幅広い連携も進めています。また、1951年に発足した米州機構(OAS)にも加盟していますが、11年に中南米カリブ諸国共同体(CELAC)が発足し、OASから米国及びカナダを除いた全ての中南米諸国(33か国)が加盟し、域内での政治・経済・社会・文化の側面の統合を長期目標に掲げています。

またOECSとして、域内の往来自由化を開始し、現在さらなる経済統合を目指しています。既に通貨統合を達成しており、各国間の経済格差も小さいことから、カリコムに比べOECSの統合の実現性は高いといわれています。

## 7. 対日貿易

ドミニカの対日貿易は、自動車輸入を中心に輸入額が輸出額を大きく上回っています。その他の主な輸出入品目については以下表7のとおりです。

表7 対日貿易（2020年）（単位：千円）

対日輸出総額	27,212	対日輸入総額	353,835
主な輸出品	メリヤス編み及びクロ	主な輸入品	自動車 264,553

	セ編み衣類(下着類) 19,327		原動機 60,253
	家具 4,007		ゴムタイヤ及びチューブ
	非金属鉱物製品 1,159		14,110

(出所：財務省貿易統計、国別概況品別表)

#### IV 日本との関係

##### 1. 政治・外交

日本は1978年11月3日の独立と同時にドミニカを承認し、同年12月11日に外交関係を樹立しました。1981年4月から在トリニダード・トバゴ大使館がドミニカを兼轄しています。ドミニカは駐日大使館を設置していません。16年5月、我が国は初代駐ロゾー名誉総領事としてクルーズ＝ラティエグ氏を任命しました。

ドミニカは1981年に国際捕鯨委員会（IWC）に加盟（1983年6月脱退）した後、1992年に再加盟しました。海洋生物資源の持続可能な利用に対し協力的な立場をとっていますが、08年以降IWC年次会合を欠席しています。

##### 2. 開発協力（研修員及び専門家については、2020年度までの実績）

日本のドミニカに対する開発協力は、脆弱性の克服を基本方針として、防災・環境、水産を中心に行われています。水産無償資金協力では、1993年度以降、10件（計68.55億円）を実施した他、ハリケーン等の被害に対する緊急援助物資供与（1,200万円（1998年度）、1,300万円（2015年度）、1,600万円（2017年度）及び経済社会開発計画による防災機材供与（2.2億円（2017年度））2000年度からは草の根・人間の安全保障無償資金協力を28件実施しました。また、19年10月ロゾー及びマリゴットにおける水産の建物及び機材整備計画が署名されました。

技術協力では、1983年度以降、158人の研修員を我が国に受け入れており、1993年度以降、水産分野の専門家を中心に10人（広域専門家を含む）を派遣しました。01年1月に青年海外協力隊取極が締結され、これまで教育分野等のJOCV（青年海外協力隊）41人を派遣しました。また、18年度から19年度にかけて技術協力としてハリケーンの被害からの復興に資する洪水対策・砂防の専門家を派遣されました。

（参考：水産無償資金協力）

1993年度	沿岸漁業開発計画（1/3）	（6.17億円）
1994年度	沿岸漁業開発計画（2/3）	（5.59億円）
1995年度	沿岸漁業開発計画（3/3）	（5.70億円）
1998年度	ロゾー水産施設改修計画	（5.10億円）
2000年度	沿岸漁業開発拡充計画（1/2）	（5.94億円）
2001年度	沿岸漁業開発拡充計画（2/2）	（11.14億円）
2002年度	マリゴット漁港整備計画	（16.63億円）
2008年度	ポーツマス水産センター整備計画	（7.44億円）
2015年度	水産関連機材整備計画	（4.84億円）
2019年度	ロゾー及びマリゴットにおける水産の建物及び機材整備計画	（10.72億円）

(参考：経済社会開発計画)

2014年度	途上国の要望を踏まえた工業用品等の供与	(1.00億円)
2015年度	経済社会開発計画(防災機材)	(2.00億円)
2017年度	経済社会開発計画(防災機材)	(2.20億円)

### 3. 要人往来

(往訪)

1999年5月	亀谷博昭農水政務次官
2006年1月	近藤基彦衆議院議員
2018年5月	佐藤正久外務副大臣

(来訪)

1990年11月	シニョレット大統領(即位の礼)
1992年9月	チャールズ首相
1997年8月	ジェームズ首相
2000年9月	ダグラス首相
2001年1月	パスカル農水相
2001年7月	チャールズ首相
2004年6月	ジョージ農業大臣(水産庁主催シンポジウム出席)
2007年4月	スケリット首相(海外漁業協力財団による招聘)
2010年9月	バーナード外務担当国務大臣(第2回日・カリコム外相会議)
2015年10月	バロン外務・カリコム担当大臣
2019年3月	バロン外務・カリコム担当大臣(第5回国際女性会議出席)

### 4. 文化・人的交流

1994年度にアラワク・カルチャー・ハウスに対する音響・照明・視聴覚機材(4,400万円)の文化無償協力を実施しています。また、1997年にドミニカ公共図書館に対し、2000年に公共図書館局に対し、それぞれ国際交流基金事業の図書寄贈を実施しています。更に、2000年に国際交流基金事業として江戸風・独楽ワークショップを実施しています。

また、人的交流事業では、13年度から18年度にかけて、カリコム若手外交官招聘プログラムで計5人が来日、20年度は1名がオンライン参加をしています。

2020年東京オリンピック(21年に延期)のドミニカのホストタウンは、鹿児島県和泊町で、既に交流が開始されています。

### 5. 在留邦人

21年4月現在の在留邦人数は0人です。

## V 旅行者のために

通貨・両替	<p>単位：東カリブドル</p> <p>1米ドル＝2.7東カリブドルで固定。</p> <p>紙幣：1、5、10、20、50、100ドル</p> <p>硬貨：1、2、5、10、25セント</p> <p>東カリブドルへは、銀行やホテルで両替可</p> <p>米ドルもほとんどの場所で使用可</p>
電話	<p>ドミニカの国番号：1-767</p> <p>ドミニカにかける場合</p> <p>1-767+相手先電話番号（7桁）</p> <p>ドミニカからかける場合</p> <p>国際電話：011（*）+国番号（日本の場合81）+最初のゼロを除いた電話番号</p> <p>*国番号が1の地域〔北米・カリブ等〕は「011」不要</p>
電圧	<p>電圧：230ボルト、周波数：50ヘルツ</p> <p>プラグの形状：Dタイプ、Gタイプ</p>
観光情報	<p>観光局（Discover Dominica Authority）</p> <p>電話：(1-767) 448-2045</p> <p>観光省（Ministry of Tourism and Urban Renewal）</p> <p>電話：(1-767) 266-3497 / 3003</p>
交通手段	<p>タクシーは政府指定の国内均一料金。タクシー利用前に、目的地までの料金、料金単位が米ドルか東カリブドルかを運転手に要確認。</p>
治安	<p>人口比の犯罪件数は多く、多額の現金や貴重品を持ち歩かない、宿泊先の施設は確実に行う、夜間の徒歩移動は避けるなどの基本的な注意が必要。また、19年の総選挙前には、市民による暴力的抗議活動も頻発したことから、現地情報の入手に努め、巻き込まれないように注意を要する。</p>



## VI 主要連絡先

警察	☎ 999 / 448-2222
救急車	☎ 448-2980,266-5190,448-2889,266-4459
消防署	☎ 同上
国際空港 ケイン・フィールド国際空港	☎ 449-1199
航空会社 ・LIAT	☎ 440-2452, 445-7242, 448-3980
在トリニダード・トバゴ日本国大使館 (ドミニカを管轄)	5 Hayes St.、 St. Clair、 Port of Spain、 Trinidad and Tobago、 W.I. ☎ (1-868) 628-5991

(電話番号はドミニカからかける場合の番号)

## ドミニカ閣僚名簿

(2019年12月17日組閣)

2020年1月現在

## 1. 大臣

DLP : ドミニカ労働党

(1)	首相兼財務・強靱性・経済・投資・計画・持続可能な開発・通信・放送大臣 Prime Minister and Minister for Finance, Resilience, Economic Affairs, Investments, Planning, Sustainable Development, Telecommunications and Broadcasting	ルーズベルト・ <u>スケリット</u> The Honourable Roosevelt SKERRIT	選出議員 DLP
(2)	上級大臣兼住宅・都市開発大臣 Senior Minister and Minister for Housing and Urban Development	レジナルド・ <u>オーストリー</u> The Honourable Reginald AUSTRIE	選出議員 DLP
(3)	国家安全保障・内務大臣 Minister for National Security and Home Affairs	レイバーン・ <u>ブラックモア</u> The Honourable Rayburn BLACKMOORE	選出議員 DLP
(4)	外務・国際経済・海外居住者関係大臣 Minister for Foreign Affairs, International Business and Diaspora Relations	ケネス・ <u>ダルー</u> The Honourable Dr. Kenneth DARROUX	選出議員 DLP
(5)	ブルー及びグリーンエコノミー・農業・国家食料安全保障大臣 Minister for Blue and Green Economy, Agriculture and National Food Security	フィデル・ <u>グラント</u> The Honourable Fidel GRANT	選出議員 DLP

(6)	観光・国際運輸・海洋政策大臣 Minister for Tourism, International Transport and Maritime Initiatives	デニス・チャールズ The Honourable Denise CHARLES	選出議員 DLP／女性
(7)	青少年育成及び能力開花・危険 状態青少年・ジェンダー問題・ 高齢者安全・障害者担当大臣 Minister for Youth Development and Empowerment, Youth at Risk, Gender Affairs, Seniors' Security, and Dominicans With Disabilities	アディス・キング The Honourable Dr. Adis KING	選出議員 DLP／女性
(8)	貿易・商務・起業家精神・技術 革新・商業・輸出開発大臣 Minister for Trade, Commerce, Entrepreneurship, Innovation, Business and Export Development	イアン・ダグラス The Honourable Ian DOUGLAS	選出議員 DLP
(9)	統治・行政改革・市民能力開 花・社会正義・教会事項大臣 Minister for Governance, Public Service Reform, Citizen Empowerment, Social Justice and Ecclesiastical Affairs	グレッタ・ロバーツ The Honourable Gretta ROBERTS	選出議員 DLP／女性
(10)	環境・地方近代化・カリナゴ族 向上大臣 Minister for Environment, Rural Modernization and Kalinago Upliftment	コジール・フレデリック The Honourable Cozier FREDERICK	選出議員 DLP
(11)	保健・健康・新保健事業投資大 臣 Minister for Health, Wellness and New Health Investment	アービング・マッキンタイ ヤー The Honourable Dr. Irving MCINTYRE	選出議員 DLP

(12)	公共事業・デジタル経済大臣 Minister for Public Works and the Digital Economy	カッサーニ・ラビール Senator Honourable Cassani LAVILLE	選任議員 DLP
(13)	スポーツ・文化・地域開発大臣 Minister for Sports, Culture and Community Development	ロゼリン・ポール The Honourable Roselyn PAUL	選出議員 DLP／女性
(14)	教育・人材計画・職業訓練・国 家卓越性大臣 Minister for Education, Human Resource Planning, Vocational Training and National Excellence	オクタビア・アルフレッド The Honourable Octavia ALFRED	選出議員 DLP／女性

## 2. 国務大臣

(1)	首相府付通信・放送担当国務 長官 Minister of State in the Office of the Prime Minister, with Responsibility for Telecommunications and Broadcasting	オスカー・ジョージ Senator Honourable Oscar GEORGE	選任議員 DLP
(2)	財務・経済・計画省付国務大 臣 Minister of State in the Ministry of Finance, Economic Affairs and Planning	グレゴリー・カレッサ・ リビエール Senator Honourable Gregory Karessah RIVIERE	選任議員 DLP
(3)	外務・国際経済・海外居住者 関係省付海外居住者関係担当 大臣 Minister of the State in the Ministry of Foreign Affairs, International Business and Diaspora	エドワード・レジスト The Honourable Edward REGISTE	選出議員 DLP

	Relations, with Specific responsibility for Diaspora Relations		
--	--	--	--

### 3. 政務次官

(1)	観光・国際運輸・海洋政策省 空港・港湾運営担当政務次官 Parliamentary Secretary in the Ministry of Tourism, International Transport and Maritime Initiatives, with special responsibility for Air and Sea Port Operations	<u>チェキラ・ロックハート＝ ハイポライト</u> The Honourable Chekira LOCKHART-HYPOLITE	選出議員 DLP／女性
(2)	保健・健康・新保健事業投資 省地域社会・住宅介護担当政 務次官 Parliamentary Secretary in the Ministry of Health, Wellness and New Health Investment, with special responsibility for Community and Home Care	<u>ケント・エドワーズ</u> The Honourable Kent EDWARDS	選出議員 DLP

当館注：ドミニカにおいては、国務大臣及び政務次官を含む同名簿に記載される全ての閣僚が閣議に出席する。

参考資料 2 : ドミニカ祝祭日 (2021年)

1月 1日	NEW YEAR' S DAY	元旦
4月 2日	GOOD FRIDAY	グッドフライデー
4月 5日	EASTER MONDAY	イースターマンデー
5月 3日	LABOUR DAY	労働者の日
5月 24日	WHIT MONDAY	ウィットマンデー
8月 2日	EMANCIPATION DAY	解放の日
11月 3日	INDEPENDENCE DAY	独立記念日
11月 4日	NATIONAL DAY OF COMMUNITY SERVICE	地域奉仕活動の日
12月 25日	CHRISTMAS DAY	クリスマス
12月 26日	BOXING DAY	ボクシングデー

当館管轄国と日本の貿易関係（2020年全期）

	アンティグア・バーブーダ	ドミニカ国	グレナダ	セントクリストファー・ネービス	セントルシア	セントビンセント	トリニダード・トバゴ	ガイアナ	スリナム
対日輸入 総額	878,651 (2,040,207)	353,835 (908,788)	555,134 (913,435)	782,131 (1,027,435)	806,549 (1,453,949)	536,418 (512,562)	13,457,439 (17,500,559)	6,076,751 (6,535,155)	5,377,120 (8,852,932)
主要 輸入品目	自動車 681,925 ポンプ及び遠心 分離機 141,122 建設用・鉱山用 機械 12,430	自動車 264,553 原動機 60,253 ゴムタイヤ及び チューブ 14,110	自動車 505,288 原動機 22,763	自動車 421,054 船舶類 327,254	自動車 745,635 自動車部品 15,531 原動機 7,859	自動車 364,685 ポンプ及び遠心 分離機 101,898 自動車部品 11,965	自動車 10,400,900 原動機 712,140 管・管用継手 418,597	自動車 4,501,223 原動機 338,229 自動車部品 145,069	自動車 4,036,040 ゴム製品(タイ ヤ・チューブ) 436,977 原動機 144,964
対日 輸出総額	2,764 (3,074)	27,212 (78,754)	0 (2,080)	282 (1,591)	658 (1,522)	225,095 (229,753)	2,976,138 (6,945,745)	509,256 (905,398)	351,367 (738,893)
主要 輸出品目	記録媒体 1,615 電気計測器 876	下着類 19,327 家具 4,007 非金属鉱物製品 3,073		手道具類及び 機械用工具 282	アルコール飲料 658	まぐろ 222,870	有機化合物 2,733,465 非鉄卑金属くず 110,172 カカオ 30,229	非鉄金属鉱 455,217 生きた動物 38,443 アルコール飲料 15,283	魚介類 326,161 木材 18,369 通信機 2,030
対日 貿易収支	-875,887 (-2,037,133)	-326,623 (-830,034)	-555,134 (-911,355)	-781,849 (-1,025,844)	-805,891 (-1,452,427)	-311,323 (-282,809)	-10,481,301 (-10,556,376)	-5,567,495 (-5,629,757)	-5,025,753 (-8,219,007)

<単位>1,000円 / <出典>財務省貿易統計:国別総額表,国別概況品別表( )内2019年総額